

総合戦略検証委員会の評価に係る29年度事業実施状況及び30年度予算編成状況について

事業名及び検証委員会による評価	平成29年度事業及び平成30年度予算編成にあたっての対応状況
<p><b>①南あわじを売り出そう地域が元気になる事業</b></p> <p>平成27年度地方創生事業交付金(先行型・上乘せ型)による上沼恵美子を起用してのWEBサイト「あわじ国」はテレビ等の各メディアで取り上げられ、話題性もあり、イングランドの丘及び美菜恋来屋、ひいては南あわじ市の観光施設全体への集客効果があったと考えられる。</p> <p>これを踏まえて平成28年度は話題の新技术であるバーチャルリアリティ技術を用いての「バーチャンリアリティ」を展開し、さらに「淡路島サクラマス」を新ご当地メニューとして宿泊飲食店舗に展開したことは、前年度に引き続いて効果的な事業展開ができていると考えられる。結果、市内への観光客数は27年度303万人に対して28年度も304万人と順調に推移することができている。</p> <p>一方、総合戦略におけるKPI①を見ると、淡路花博の会場であった効果もあり平成27年度は目標を達成しているものの、平成28年度は目標5億円に対し4.84億円と若干割り込んだ状況となっており、KPI②の入場者数も目標を達成できていない。前年と比較して売上額が伸び、入園者数が減ったということは、一人当たり売上単価は増加傾向にあると考えられるものの、<b>売上単価は景気に左右されるものであることから、入園者数(又はレジ通過数)の推移を重要視すべきと考える。</b></p> <p>結果、達成状況の判断としては、KPI①及び②のいずれも達成できていないため、B評価が妥当と考える。</p> <p>なお、特に28年度のKPI②入園者数が目標を大きく割っていることから、<b>29年度以降のKPIの設定が妥当なものであるか、今後の入園者数の推移を踏まえながら検討していく必要があると考える。</b></p>	<p>○平成29年度は、引き続き「淡路島サクラマスプロジェクト」を推進し、新聞、テレビ、ラジオ、インターネットをはじめSNSなどで数多く取り上げていただいています。</p> <p>○検証委員会での評価を踏まえ、レジ通過数を把握していますので、次回検証委員会時にご報告予定です。</p> <p>平成30年度予算措置:事業概要説明書32ページ</p>
<p><b>②南あわじドローン(UAS)産業育成事業</b></p> <p>ドローン産業は、「空の産業革命」とも呼ばれるように、今後の成長が期待される産業分野である。</p> <p>平成28年度は国の地方創生加速化交付金(10/10補助)により事業実施したものであり、航空法や電波法の改正に係るシンポジウムや操縦研修会の開催によってドローンを扱うことができる人材育成を行ったことは、今後のドローンを使った調査需要の増加を想定すると効果があったと考えられる。</p> <p>また、市内農地の空撮写真による作付け状況の把握などを行うにあたり、<b>システム構築を行う場合は、汎用性のあるシステム構築に努めていただき、農地整備課以外で所有している地図データと連携して活用できるような方策も検討いただきたい。</b></p> <p>平成29年度以降も地方創生推進交付金を活用して、農業分野を主とした調査需要を生み出し、市内企業が成長するよう注力していただきたい。</p>	<p>○平成29年11月27日に東京大学大学院でドローンを用いた河川維持管理等を研究されている齋藤特任講師を本市へ招き、関係職員及び島内測量会社等を対象に講演会を開催しました。農地整備課が構築しているシステムについて、建設課等の地図データと連携したシステムを高く評価していただきました。</p> <p>○平成29年度は引き続きドローン操縦士育成を行っています。</p> <p>平成30年度予算措置:事業概要説明書27ページ</p>
<p><b>③ASAトライツ'ル(南あわじ・鳴門・東かがわ)を結ぶ、サイクリング'ツーリズム推進事業</b></p> <p>近年、南あわじ市内でもサイクリストをみかけることが多くなっており、広島県-愛媛県間のしまなみ海道においては、サイクリストが年間17万人利用しているとの調査結果もある。南あわじ市においてもサイクリスト等の交流人口の増加により地域経済の活性化を図ることは重要である。</p> <p>平成28年度は、平成29年度以降に実施する事業の基本方向を定めるためのサイクリングコースや淡路鳴門間の自転車輸送などの調査を実施しており、今後はこの調査結果を活かして、<b>淡路鳴門間の自転車輸送、レンタルサイクル等の効果的な事業展開によって、例えばスタンプラリーの実施などで地域経済も活性化することを期待する。</b></p> <p>また、レンタルサイクルの実施にあたっては、<b>市民が趣味としてレンタルできるような仕組みがあれば、市民も自転車の楽しさを共有できるのではないかと考える。</b></p> <p>今後も島外からサイクリストが南あわじ市を訪れることが多くなると見込まれるため、<b>道路標示などの安全対策についても引き続き検討いただきたい。</b></p> <p>なお、自転車の陸路輸送を行うこととされているものの、1日3便であることから台数も限定的となると思われる。<b>KPI①及びKPI②の達成に向けて、自転車を使用した鳴門海峡大橋の自転車専用道路の整備の可能性についても調査検討していただきたい。</b></p>	<p>○レンタサイクルについては、平成30年4月からクロスバイク(大人用6台、子ども用2台)、電動自転車2台の計10台を陸の港サイクルステーションに設置します。</p> <p>○サイクリングを楽しんでいただくためにスタンプラリーを実施します。サイクリングコースは陸の港～慶野～津井～阿那賀の約40kmを想定し、各チェックポイントにてスマホアプリを活用してスタンプを集めていただくものです。スタンプをすべて集めると粗品(スポーツタオル)をプレゼント予定です。市民の皆様にもサイクリングを楽しんでいただけたらと考えています。また併せて、配布するマップには周辺店舗を掲載させていただき、地域経済の活性化に寄与したいと考えています。</p> <p>平成30年度予算措置:事業概要説明書31ページ</p>

総合戦略検証委員会の評価に係る29年度事業実施状況及び30年度予算編成状況について

事業名及び検証委員会による評価	平成29年度事業及び平成30年度予算編成にあたっての対応状況
④未来の担い手確保・育成総合支援事業	
<p>南あわじ市総農家数は平成12年から10年間で約1割以上減少(5,126戸→4,514戸)しており、担い手の確保は喫緊の課題である中、吉備国際大学生への就農支援事業は、1期生が平成28年度に卒業を迎えた中、KPI①も概ね達成できており、若者の新規就農への筋道をつけつつあると評価できる。</p> <p>また、平成28年度に実施した農業女子プロジェクト事業は、男性と異なる経営感覚を持つ女性の団体の活動を支援することで、農業の合間に収穫可能なブルーのポット栽培の検討を行うなど、これまでとは異なる視点での農業展開が検討され、KPI②も達成されている。</p> <p>平成29年度以降は、上記2事業に加えて、新規就農者が元農家の農業用施設を再活用するためのマッチング事業も予定されており、<b>引き続き南あわじ市の基幹産業である農業の活性化を促進されたい。</b></p> <p>なお、国からの地方創生推進交付金の交付決定額が90万円であるものの、実績額が25万円にとどまっているが、これは国からの交付決定日が8月30日であったことにより、それ以前に実施した事業については事前着手のため国からの地方創生推進交付金対象外とされたことによる。<b>この件については、機会を捉まえ、早期の交付決定を国に要望等していくべきと考える。</b></p>	<p>○平成29年度及び平成30年度において、引き続き農業担い手確保を重要施策と位置付けて事業展開します。</p> <p>○国の平成30年度地方創生推進交付金事業については、4月上旬に交付決定見込であり、スムーズな事業着手ができると考えています。</p> <p>平成30年度予算措置:事業概要説明書24ページ</p>
⑤アンテナショップ開設運営事業	
<p>南あわじ市の特産物を首都圏においてPRし、販路拡大や観光客誘致を積極的に取り組もうとするものであり、平成28年度の実績をみると南あわじ市特産物販路拡大・物産展協議会への委託事業2,500千円との実績である。</p> <p>同協議会の決算報告書から</p> <p>11月5日(土)～6日(日)ふるさと渋谷フェスティバル(渋谷区)</p> <p>11月15日(火)～17日(木)しまつくりキャラバン(福岡市)</p> <p>11月23日(水)～26日(土)淡路島ええもん美味いもんフェア(千代田区)</p> <p>11月26日(土)～27日(日)アイランダー(池袋)</p> <p>へ出展し特産物PR等を行っているの、今後は、物産展での来客数や売上額等から物産展出展に係る効果を把握していただきたい。</p> <p>当該事業のKPIが三力(魅力・味力・見力)発信協力店舗への卸売額であることから、<b>平成29年度においては、早期に協力店舗を確保し、KPIを達成するよう積極的な事業展開を図っていただきたい。</b></p> <p>良いものをピンポイントで、<b>最終的には淡路島に足を運んでくれることを目的として、認知度の向上に取り組んでいただきたい。</b></p>	<p>○平成29年度は魅力発信協力店舗の確保を目的に、飲食ポータルサイトを運営する(株)ぐるなびと提携し、南あわじ市の魅力を発信していただける協力店舗の確保に努めました。また、地域おこし協力隊を活用し、販売網を拡大することにより、例えば大手飲食店での南あわじ市製品の受注をはじめ、三木サービスエリアにおいて素麺の取り扱いを大量に受注するなどの成果が現れています。</p> <p>併せて、生産地ツアーを行い、協力店舗の店主等を南あわじ市に招くことにより、認知度の向上に取り組んでいます。</p> <p>平成30年度予算措置:事業概要説明書35ページ</p>
⑥南あわじ市見力発信事業!	
<p>平成28年度では、平成29年度に行うホームページ改修等の事業実施に向けて調査研究業務を行っているの、調査結果を精査の上、<b>魅力あるホームページづくりを行っていただきたい。</b>特に、SNS等のメディアを活用したKPI「<b>SNSシステムを活用したフォトコンテスト</b>」について、<b>参加者が増加する仕組みづくりを行っていただきたい。</b></p> <p>ホームページをはじめとするメディアの世界の情報技術は日進月歩であるので、最新技術を駆使して南あわじ市の魅力を発信し、本市を訪れる人が増え、人・物・金の動きが生まれ、交流人口の増加や地場産業の活性化につながることを期待する。</p>	<p>○平成29年度にホームページをリニューアルいたしました。</p> <p>○SNSシステムを活用したフォトコンテストについて、各日刊紙に取材・記事掲載いただき、また観光協会を通じて各飲食店舗にも周知を行い、参加者の増加を図っています。</p> <p>平成30年度予算措置:事業概要説明書50ページ</p>
⑦松帆銅鐸を活用した郷土愛の醸成と地域経済の活性化	
<p>松帆銅鐸は「世紀の発見」「国宝級の資料」と言われているものの、市民意識としては、松帆銅鐸の価値はまだまだ広く認識されていない状態ではないと考えられる。</p> <p>平成28年度は、松帆銅鐸に係るPRイベントや市民講座の開催、復元品作成や特設サイトのオープンなどによって銅鐸への理解を一定程度広めることができていると考えられる。</p> <p>KPI①～③については、概ね達成されているので、今後も松帆銅鐸を市民に広く認識していただくためには、引き続き各種PR、市民講座、鑄造体験などを継続的に行う必要があると考える。<b>平成29年度以降も啓発事業に取り組んでいただきたい。</b></p> <p>また、文化庁が指定した淡路島日本遺産において、松帆銅鐸が構成文化財とされていることから、<b>淡路島日本遺産のPR活動と連携して事業展開していただきたい。</b></p>	<p>○平成30年3月4日に松帆銅鐸フェスタを美菜恋来屋にて開催し、多くのお客様にご来場いただきました。</p> <p>○日本遺産PRパンフレットに松帆銅鐸を掲載するなど連携したPRを行っています。</p> <p>平成30年度予算措置:事業概要説明書21ページ</p>